

みずもと

附属図書館長に就任して 利用から見る	1	目次	図書館の継続購入資料を充実します	7
「大学附属図書館」の建築	3		新着図書を紹介	8
室蘭工業大学紀要を ホームページで公開	5	次	電子ジャーナル利用説明会を開催	9
2004年版（平成16年度） 電子ジャーナルについて	6		平成15年度重点図書購入費について	9
			特別文庫の創設について	10
			図書館日誌	12
			図書館職員の人事異動	12

附属図書館長に就任して

附属図書館長 田頭 孝介
(機械システム工学科)

急逝された三澤俊平前附属図書館長の後を継いでまもなく半年経つ。本文を就任挨拶とするにはあまりにも時間が経ち過ぎた感がある。歴代の図書館長の就任挨拶等をいま改めて読み返すと、そこには図書あるいは図書館に対する熱い思い入れが読み取れ、かつ館長としての威厳と余裕が滲み出ている。小生はというとワン・ポイント・リリースの心境で引き受けたこともあり、館長としての抱負を問われれば問われるほど、妙に醒めてきて言葉を失う。今は、附属図書館としての中期目標・中期計画案（現時点ではあくまでも図書館の内部資料にすぎないが）もほぼ固まり、今後それをどう表に出し、法人化後の館長へ引き継ぐかを思案しながら本稿を書いている。

館長になっての初仕事は、来年度以降の電子ジャーナル（以下、電子J）の本格的な導入決定であった。最新の学術情報をいつでも学習・教育・研究に取り込めるわけで、その整備は本学のような地方に立地す

る大学にとってこそ必要であろう。昨年度図書館委員会に設置した「電子ジャーナルワーキンググループ（座長：空閑良壽教授）」でその整備を審議いただき、



7月に答申を頂いた。学内のアンケート調査を踏まえ、現在本学で導入している電子J約1400誌を来年度から一気に3100誌近くまで増やすことが提案されている。非常に便利になる反面、その増加分だけで2000万円余を要する。その実現には、教育・研究基盤を整備しようとする学内の合意と全学共通経費による負担がぜひ必要となる。

早速、学長に同意を頂き、7月末の教授会で電子J整備の趣旨を説明し、無事承認頂いた。法人化後の貴重な財源から予算計上しなければならないため、無駄はできない。単なる先行投資で終わらせないために

も、教職員はもちろん学生（特に大学院生）にどんどん使って欲しい。研究室での先生方のご指導も期待したい。もちろん図書館としても、利用動向を継続的に調べていく方針である。残された課題は、膨大な情報の中から要領よく必要な学術情報を引き出すためのシステムの導入である。

折角の機会なので、電子Jの導入について小生の思いをもう少し述べたい。小生は学部で精密工学を学んだが、大学院に進学後いつのまにか興味は材料工学に移った。修士課程を終え何度か職場や職種を変える度に、所属機関の図書館に通い定期的に文献調査をした。特に、1980年滞在した英国の大学や1996年滞在したスウェーデンの研究所では、仕事に疲れたときあるいは他人と話をしたくないときなどは、文献調査と称してよく閲覧室に逃げ込んだ。冊子体としての論文集、時には仕事と関係のない書籍、を手にとり時間をかけて目を通すうちに心が落ち着いた。もしも昨今のように学術雑誌が電子化されていたなら、図書館を逃げ場の口実として、職場から姿を消すことは許されなかったに違いない。

ただ、今は違う。電子Jを一度使い慣れると、後戻りできなくなるほど有用である。閲覧室に行かずとも手元のパソコンで複数の学術論文を芋づる式に入手できる。ディスプレイに向かってのこの作業が結構楽しいし、気分転換にもなる。ただ、電子Jを使い慣れるほどに、その受入れ業務に携わっている裏方としての図書館の存在を忘れてしまう。館長としてはいささか残念ではあるが、今後ますます情報の電子化に対応した図書館の在りかたが問われることになる。

ここで附属図書館の学習・教育面での役割も強調しておきたい。学生がレポートの提出や定期試験の準備で足繁く閲覧室で学

習する姿はごくありふれた光景である。就職試験やTOEICなど各種検定試験の準備などの利用も大歓迎である。ただ、そんな大層な理由でなくても、「休講になったから」、「暇だから」、「雨宿りをしたいから」、「外は寒いから」というごく素朴な理由だけでもよい。余暇を見つけて気楽に閲覧室に入り浸ることを提案したい。言うなれば憩いの場としての利用である。このことは大学人だけでなく、地域の企業に働く技術者はもちろん広く一般市民にも要望したい。

小生もときどき札幌市中央図書館に遊びに行く。二階にはかなりの音楽CDが開架されている。手垢や傷などが付いたCDも多く見られ、利用者のモラルが疑われることもある。が、それでもうるさい規制・制限を設けず、誰でも自由に傍の視聴覚機器で楽しめる。市民でない小生でも、気兼ねなくそこで休日を過ごすことができる。

再びまえおきに戻る。おまえはどうも図書館長としての心構えが希薄だが、「読書」に対する思い入れすら無いのか、と問われれば必ずしもそうではない。読書を趣味と主張できるほどの自信は無いが、高校生時代から今日までジャンルを問わず多読は習慣化している。まだ純真であった若い頃、スコットランド出身の作家クローニンの『城砦』や芹沢光治良の『人間の運命』は特に精読した。強烈な影響を受け、確実にその後の人生の指針・基盤となった。俗化・鈍化してしまった今、当時と同じだけの感銘を受けるかどうかは疑問であるが……。久しぶりに思い出し、我が附属図書館の蔵書を検索してみると、ちゃんとあった。すぐ借りて読み返すだけの元気は無いが、蔵書を確認でき安心したところで脱稿とした。

（たがしら・こうすけ）

◆◆◆ 利用から見る「大学附属図書館」の建築 ◆◆◆

建設システム工学科 眞境名 達 哉

私の専門である建築計画は平たく言えば、建物の利用から建物のあり方を考えるものです。図書館報への折角の寄稿の機会を得ましたので、そのような視点で本学の附属図書館の特性を取り上げたいと思います。

本学の図書館を利用された方は気付かれると思いますが、その特徴の一つに利用者のおしゃべりの多さがあるのではないのでしょうか。私の第一印象はそうでした。しかしそれが本当におしゃべりであるならば「常識をわきまえる」の一喝でしょうが、始末が悪いことに(?)おしゃべりとおぼしきその中身は、何やらレポート作成のためのディスカッションだったりするのです。概して彼ら彼女らは真剣な顔で、周りに臆することなく(?)グループ学習しているのです。

私はこれらのおしゃべりを擁護するつもりはありませんが、一方で「図書館はおしゃべり禁止」という前提に囚われすぎること、大学図書館本来の目的を見失ってもいけないと思います。例えば建築計画の教科書に「大学図書館が担う機能の一つに学習図書館機能がある」とありますが、その学習の効率性において静かが良いというのが正しい考えなのでしょう。では、他の大学図書館も同じような利用や様子となっているのでしょうか - 私の研究室で今年行った調査結果より見ていきましょう。

まず札幌にある国立H大学の図書館(本館)はグループ学習がほとんど見られず全体に静かでした。また同じく札幌にある私立H学園大学の図書館(豊平)も同様にグループ学習はほとんどなく静かに利用していました。一方、工学系である本学と札幌市内にある私立H工業大学は共にグループ学習が多く、おしゃべりが多く見られました。

既往研究によると大学図書館(筑波大, 東工大, ICU)の来館者の7割は学部学生で、利用者全体の半分が「学習のため」という調査結果がありますが、上記の結果はその利用の中心にある学部学生の属性に大きく関わると考えられます。私は特に利用者が文科系/理工系のどちらに多く所属しているかが大きく関係していると考えています。なぜなら、両者の学習ではその図書利用が大きく異なるからです。例えば文科系の学習ではしばし、本がある量読むことが求められますが、一方理工系では数ページ、時には数行の公式を理解していれば良い場合も少なくありません。例えば、ハイデガーの本を読まずにハイデガーの思想をレポートするのは難しいのに対し、科学哲学専攻者ならともかくニュートン力学の理解に『プリンシピア』の必読を挙げる人は少ない、などです。

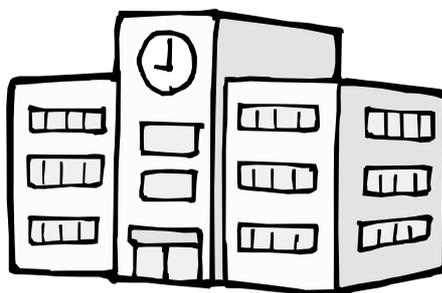
理工系の学習では一対一で本と向き合う時間が少ない分、みんなで教え合いながら学習する時間を多く取ることが可能ですので、それがグループ学習に当てられているのかも思われません。高等教育においてグループ学習の効果がどれほどあるかは教育学の知見を得たいところですが、上記の結果から少なくとも本学の特徴としてそのような要求があることが窺えると思います。

グループ学習の要求があるにせよ、では本学の図書館からおしゃべりは無くならないのでしょうか。この場合「グループ学習室の設置・充実」は何らかの解決になると思われませんが、単なる量の充実だけではダメなようです。これも調査から分かったのですが、H工業大には図書館に付随して学習室らしきものが計画されていますが、その利用は必ずしも芳しくありません。見方を変えるならば、本学の食堂もゆったりとした広い机が用意され、そこではいくらかでもディスカッションできますのでグループ学習室と呼べなくもないですが、グループ学習の集団をあまり見かけることはありません。これも調査から分かってきたことですが、図書館の空間自体にそれらのグループ学習者を引きつける要素があるようです。まだはっきりと結論できませんが、手軽にそして大量の参考図書が近いこと、図書館特有の緊張感のある雰囲気などが - これらは利用者のわがままな要求も少なからず含まれていると思いますが - 好まれているのかもしれない。

図書館内にグループ学習を取り入れるならば、必ず単独利用の閲覧者との関係を考えなくてはなりません。その場合、ゾーニングによる方法が有効です。両者に適した空間をいかに用意し、それらを上手に分けて配置するかがここでのポイントとなります。現在の図書館ではグループ学習が1, 2Fのあちらこちらで起きているので、もう少し両者の空間利用を明確になるよう分けるべきではないでしょうか。

少ない調査にも関わらず、調子に乗り提案を試むなど、私自身おしゃべりが多くなってきました。この続きは何かの折りにお見せできればと思っております。

(まじきな・たつや)



室蘭工業大学紀要をホームページで公開

本学で発行している『室蘭工業大学紀要』は、平成14年度の図書館委員会で紀要の電子化が承認され、電子化に向けて準備を進めてきました。その結果、平成15年度発行の第53号より掲載論文の電子化（PDF形式）を行い、本学の図書館ホームページに公開したことによって、論文投稿者の研究成果を広く国内外へ発信することができるようになりました。

なお、第47号（1997年発行）から第52号（2002年発行）までは、目次情報のみを図書館ホームページで公開しております。

また、第53号の掲載論文については、図書館ホームページの「刊行物 - 紀要」からご覧下さい（<http://mitlib.lib.muroran-it.ac.jp/kiyo/kiyoindex.htm>）。

室蘭工業大学紀要第53号

表紙
目次

依頼論文
特集:「環境調和型社会を指向して」

論題をクリックするとその論文をみるができます

論 題	著 者	掲載ページ
「環境調和型社会を指向して」特集号の発刊にあたり	嶋影 和宜	1
雪資源の石油エネルギー換算とCO ₂ 低減効果	媚山 政良	3-5
環状グラフィルタの微粒子捕集特性	高橋 洋志, 河合 秀樹, 千葉 誠一	7-13
コロナ放電プラズマによる排ガス中ベンゼンの分解	佐藤 孝紀, 吉澤 宣幸, 伊藤 秀範, 田頭 博昭, 下妻 光夫	15-21
希硫酸浸出/電解プロセスによる水産系廃棄物(通称イカゴロ)からの重金属イオンの除去	嶋影 和宜, 平井 伸治, 戸田 茂雄, 山本 浩	23-28
ポリエチレンの接触分解による石油化学原料化ケミカルサイクル	上道 芳夫, 西崎 貴洋, 多田 景二郎, 清野 章男, 杉岡 正敏, 菅蒲 明己, 伊東 正皓, 西野 順也	29-34
微生物を利用する水産廃棄物の資源化	水谷 敦司, 海野 健一, 高橋 紀行, 成田 均, 永原 利雄, 武者 一宏, 藤井 克彦, 菊池 慎太郎	35-40
微生物研究と環境バイオ産業・産業界への技術応用の視点から	藤井 克彦, 武者 一宏, 菊池 慎太郎	41-46

2004年版(平成16年度)電子ジャーナルについて

平成16年1月から、本学では次の有料の電子ジャーナルを利用できます。各学科等の希望をもとに選定したこれらの電子ジャーナルをどうぞご利用ください。

なお、「Nacsis-ELS」と「Science Direct」の一部(全タイトル中約500タイトル)は4月から利用開始となります。

No	電子ジャーナル名	出版社等	タイトル数
1	ASCE.	American Society of Civil Engineers (ASCE)	30
2	ASME.	American Society of Mechanical Engineers (ASME)	18
3	I MECH E.	Professional Engineering	14
4	IEE Proceedings.	Institution of Electrical Engineers (IEE)	13
5	IEEE-ASPP.	Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE)	118
6	Journal of Applied Physics.	The American Institute of Physics (AIP)	1
7	Kluwer Online.	Kluwer	約650
8	MathSciNet.	American Mathematical Society (AMS)	1
9	Nature.	Nature Publishing Group	1
10	Physical Review. Pt. B.	American Physical Society (APS)	1
11	PNAS : Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America.	National Academy of Sciences (NAS)	1
12	PROLA. (1983-2000)	American Physical Society (APS)	8
13	Science.	The American Association for the Advancement of Science (AAAS)	1
14	Science Direct.	Elsevier Science	約1450
15	Springer-Link.	Springer-Verlag	約420
16	Nacsis-ELS.	国立情報学研究所	約370
タイトル数の合計			約3100

この他にも、冊子体購入に伴い無料で利用できる電子ジャーナルや、冊子体とセットになっている電子ジャーナルなど、利用可能なものが多数あります。詳しくは、図書館ホームページ (<http://mitlib.lib.muroran-it.ac.jp>) の「電子ジャーナル」のページをご覧ください。

図書館の継続購入資料を充実します

平成16年4月から、新たに次の資料を継続購入いたします。どうぞご利用ください。

誌名・書名	出版社	配架場所
JA (The Japan Architect)	新建築社	1F一般図書(520.8)
Linuxマガジン	アスキー	2F南側雑誌コーナー
Software Design	技術評論社	2F南側雑誌コーナー
エンジンテクノロジー	山海堂	2F南側雑誌コーナー
化学工業	化学工業社	2F南側雑誌コーナー
現代化学	東京化学同人	2F南側雑誌コーナー
自動車工学	鉄道日本	2F南側雑誌コーナー
蛋白質・核酸・酵素	共立出版	2F南側雑誌コーナー
トランジスタ技術	CQ出版社	2F南側雑誌コーナー
トランジスタ技術 Special	CQ出版社	1F一般図書(549)
日経エコロジー	日経BP社	2F南側雑誌コーナー
日経サイエンス	日経サイエンス社	2F南側雑誌コーナー
別冊 日経サイエンス	日経サイエンス社	1Fもしくは2F一般図書 (個別に分類配架)
ポピュラーサイエンス	裳華房	1Fもしくは2F一般図書 (個別に分類配架)

なお、学習用図書費・教養図書費で、現在購入中の継続資料は、以下のとおりです。

1. 雑誌扱いのもの

(2F南側の雑誌コーナーに配架。ただし、外国雑誌の“Science”は2F北側の雑誌コーナーに配架。)

- ・C-Magazine ・National Geographic 日本版 ・O puls E ・Science ・Unix Magazine
- ・アサヒカメラ ・英語青年 ・オートメーション ・音楽の友
- ・科学 ・科学史研究 ・機械と工具 ・キネマ旬報 ・金属 ・経済セミナー
- ・芸術新潮 ・建築文化 ・工業材料 ・材料の科学と工学 ・思想 ・新潮
- ・時事英語研究 ・数学セミナー ・数理科学 ・世界 ・旅 ・中央公論
- ・電気計算 ・電子技術 ・土木技術 ・土木施工 ・日経パソコン ・ニュートン
- ・パリティ ・ひらがなタイムズ ・法学セミナー ・文学 ・文藝 ・文藝春秋

2. 新聞縮刷版(1F集密書架の85-86番に配架。)

- ・朝日新聞縮刷版 ・北海道新聞縮刷版

3. 図書扱いのもの

- ・NHKブックス(2F NHKブックスコーナー) ・SAライブラリー(個別に分類配架)
- ・岩波講座現代工学の基礎(1F一般図書 508)
- ・岩波講座物理の世界(1F一般図書 430.8) ・岩波新書(2F文庫新書コーナー)
- ・建築巡礼(1F一般図書 523) ・ブルーボックス(1Fブルーボックスコーナー)

新着図書紹介



『生命40億年全史』

リチャード・フォーティ著・草思社，2003.3

（配架場所：1F開架書架 457）

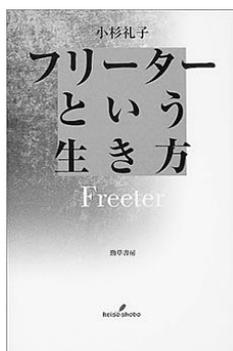
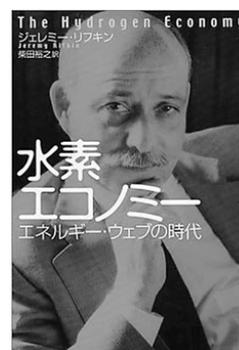
40億年という生命の歴史のなかで，いかなる進化劇が展開されてきたかを，大英博物館の古生物学者が，世界中を飛び回った発掘調査を語りながら，ひとつの壮大な物語風にまとめあげた話題の生命史。

『水素エコノミー：エネルギーウェブの時代』

ジェレミー・リフキン著・日本放送出版協会，2003.4

（配架場所：1F開架書架501.6）

水素エネルギーは，化石燃料に依存する現代社会の環境問題・経済問題等あらゆる弊害をクリアし，新しく経済的なエネルギーとなりえるもので，Web（ネットワーク）的に利用が可能として，その世界的なエネルギー構築を提唱する。現代のエネルギー問題に対する啓蒙の書である。



『フリーターという生き方』

小杉礼子著・勁草書房，2003.3

（配架場所：2F開架書架366.8）

フリーターの実態を豊富な調査・統計資料をもとに多角的に分析し，そこからフリーターが持つ個人的及び社会的意義を鋭く描き出しつつ，リスクへの打開策も探っている。「フリーター」についての啓蒙の書。

『スポーツ解体新書』

玉木正之著・日本放送出版協会，2003.1

（配架場所：2F開架書架780.21）

NHK人間講座のテキスト『日本人とスポーツ』をもとに書かれた。文化としてのスポーツの角度から，日本におけるスポーツの解剖そして批判を通して，スポーツの新たな未来像を描いており，また，非常に読みやすい書である。



「電子ジャーナル利用説明会」を開催

本学では、平成16年度から電子ジャーナルの導入タイトル数が大幅に増え、充実した内容になります。図書館では、誰もがこの電子ジャーナルを研究や学習のために利用できることを広く知っていただくために、初心者向けの利用説明会を開催しました。

実施にあたり、期間を平成15年10月1日～31日とし、申込単位を3名以上のグループといたしました。申込者の希望の日時・開催場所に図書館職員が出向き、実際に電子ジャーナルに接続しながら利用方法の説明を行いました。

利用説明会は計11回開催し、参加者は134名で、その内訳は教官20名、院生61名、学部生49名、研究生1名、技官3名でした。利用説明会後のアンケート回答結果ではおよそ60%の回答者が「これから使ってみようと思う」と回答し、「既に使っている」回答者とあわせると90%を超えました。

なお、電子ジャーナルについての質問や接続がうまくいかない時には、学術情報係（内線5191）までお問合わせ下さい。

平成15年度重点図書購入費について

平成15年度の重点図書購入費で、「室蘭周辺の地域資料」、「留学生用図書」、「資格試験関係図書」、及び「シラバス関連図書」を購入いたしました。どうぞご利用ください。

・ 室蘭周辺の地域資料

室蘭とその周辺地域に関する資料を購入いたしました。図書館1階南側の特別書架の「室蘭及び周辺地域の資料コーナー」に配架しています。

・ 留学生用図書

日本語学習用図書及び日本事情に関する資料を購入いたしました。図書館1階南側の「留学生図書コーナー」に配架しています。

・ 資格試験関係図書

本学に関わりの深い理工学系資格試験関係の資料を購入いたしました。図書館1階南側の「資格・試験関係図書コーナー」に配架しています。

・ シラバス関連図書

本学の『シラバス』に掲載されており、図書館に所蔵していない資料を購入いたしました。図書館1階南側の「シラバス図書コーナー」に配架しています。

特別文庫の創設について

このたび、以下の2つの特別文庫を創設いたしました。利用の方法は、一部（禁帯出図書）を除き、一般の図書と同様ですので、どうぞ、多数ご利用ください。

1. 「室蘭及び周辺地域の資料コーナー」の創設について

本学は、地域に開かれた大学として、地域へのさらなる貢献が期待されております。そのためには、その地域を知ることが非常に重要であり、また、図書館においても、これら地域に関する資料を広く利用者に提供することは、きわめて有意義なことです。

図書館では、利用者がこれらの資料を使いやすいように、室蘭市及びその周辺地域に関する図書及び雑誌その他の資料について、特別文庫として、収集・蓄積し、利用に供します。この文庫の内容は、「地域に関する著作」、「地域の著者等による著作」、「アイヌに関する著作」、「室蘭ゆかりの芥川賞作家文庫」の4部から成っております。

設置場所は、一階閲覧室南側の特別書架で、蔵書検索(OPAC)では配架場所が「1F地域資料」と表示されます。



2. 「資格・試験関係図書コーナー」の創設について

近年、各種の職業において、資格を有する人材が求められる傾向が非常に強くなっております。将来、職業人となる大学生にとって、各種の資格取得は、就職上極めて有効であるばかりでなく、各人の能力の向上を図る最良の方法の一つでもあります。これらの資格等に関する情報を提供していくことは、大学図書館においても、益々必要とされてきております。

図書館では、学生が、今後、社会で必要とされるであろう各種の資格・試験等の資料を、特別文庫として、収集・蓄積し、利用に供します。この文庫の内容は、主に、工学・技術関係の資格等のガイドブック及びそのための試験問題集等です。

設置場所は、一階閲覧室南側の留学生用図書コーナーの隣で、蔵書検索(OPAC)では配架場所が「1F資格試験」と表示されます。



図書館日誌 (15.7.1 ~ 15.12.31)

- 7月25日 平成15年度第2回図書館委員会
8月8日 第46回北海道地区大学図書館職員研究集会(札幌大学)
8月29日 北海道地区大学図書館協議会第53回総会(網走セントラルホテル)
8月29日 JOIS入門研修会(研究成果活用プラザ札幌)
9月12日 法人化後のILL複写料金決済処理に関する地区説明会(北海道大学)
9月17日 平成15年度第3回目録システム講習会(雑誌コース)(国立情報学研究所)
~19日
9月19日 平成15年度第3回図書館委員会
10月9日 平成15年度北海道大学附属図書館講演会(北海道大学)
10月10日 大学図書館等関連事業説明会(北海道大学)
10月30日 平成15年度(第3回)国立大学図書館協議会理事会(名古屋大学)
11月25日 平成15年度第4回図書館委員会
11月27日 第16回国立大学図書館協議会シンポジウム(一橋大学)
~28日
11月28日 北海道地区国立大学附属図書館事務(部・課)長会議(北海道大学)
12月11日 Global ILL Framework (GIF) と画像伝送システムの活用研修会(東京大学)

図書館職員の人事異動

15.7.1付

附属図書館運用係臨時補助員

野崎真弘(採用)

15.9.30付

辞職

野崎真弘(附属図書館運用係臨時補助員)

15.10.1付

附属図書館運用係員

伊藤陽平(採用)

* ()内は旧官職等

編集発行 室蘭工業大学附属図書館 〒050-8585 北海道室蘭市水元町27番1号
Tel 0143-46-5187 FAX 0143-46-5196
図書館のホームページ <http://mitlib.lib.muroran-it.ac.jp/>